

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

(評価者：海域ワーキンググループ)

モニタリング項目	No. 4 海域の生物相、及び、生息状況 (浅海域定期調査)		
モニタリング実施主体	環境省		
対応する評価項目	I 特異な生態系の生産性が維持されていること。 II 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。 III 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。		
モニタリング手法	知床半島沿岸の浅海域における、魚類、海藻、無脊椎動物のインベントリ調査。		
評価指標	生物相、生息密度、分布		
評価基準	おおよそ登録時 (or ベースデータのある時点) の生息状況・多様性が維持されていること。		
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	夏季、秋季の生物相、および貝類の多様性 (種数と量の関係) に大きな変化は生じていない。ただし、春季に調査が行われておらず、一部の生物 (特に春季に種多様性が増す海藻類など) の変化については評価できない。また、今回の調査で初めて記録された外来種 (キタアメリカフジツボ) の動態については注意が必要である。		
今後の方針	生物相調査は10年に一度程度の頻度で妥当である。しかし、季節変化を考慮して、春、夏、秋の3季を含めた比較が望ましい。貝類を対象とする多様性 (種数と量の関係) の調査は、沿岸環境変化を捉える上で重要であり、数年間隔でのモニタリング継続が必要である。また、貝類だけではなく、固着性ベントス (フジツボ類など) も対象に含めるべきである。		

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

<調査・モニタリングの結果>

【魚類】

- 6目16科43種の魚類の生息を確認した。これは2006～2009年の調査で確認した種数の約45%である。ただし、本調査の時期と努力量を勘案すると大きな変化はないと言える。キュウリウオ、ボラ、カズナギ、ニセタウエガジおよびシマウキゴリの5種が新たに確認された。

○調査期間：2017年8月17日～23日（7日間）

○調査場所：チャシコツ崎、斜里前浜、アブラコ湾、文吉湾、知床岬灯台下、獅子岩手前（ポロモイ湾）、相泊、ローソク岩

○調査対象：潮間帯および潮下帯に棲息する魚類の各種40個体

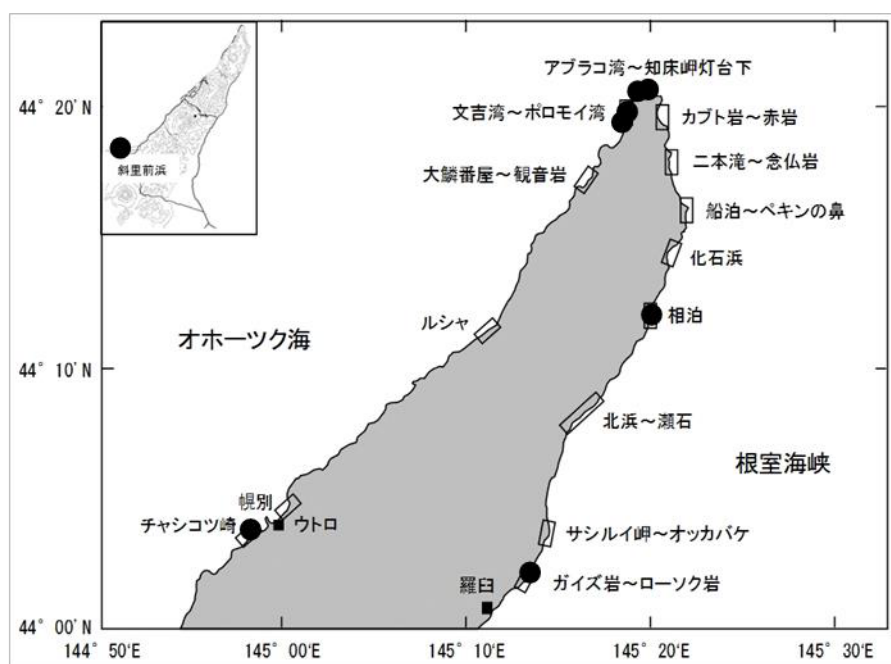


図1 2017年の知床半島浅海域における魚類生息調査の調査点 ●

出典：環境省「平成29年度知床半島における浅海域生物相調査」

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

表1 2017年に知床半島浅海域で採集された魚種および個体数

和名	調査点							
	ST1	ST2	ST3	ST4	ST5	ST6	ST7	ST8
キュウリウオ	-	-	-	1	-	-	-	-
チカ	1	40	-	-	-	-	-	-
コマイ	-	-	1	-	-	-	-	-
ボラ	1	-	-	-	-	-	-	-
クロソイ	40	3	-	18	6	10	24	-
エゾメバル	12	-	2	40	4	4	5	1
シマソイ	1	-	-	-	-	3	-	-
スミツキメダマウオ	1	-	-	-	-	-	-	-
ナガガジ	1	-	-	-	-	-	-	-
キタムシヤギンボ	15	-	-	11	-	35	1	-
フサギンボ	-	-	-	-	-	4	-	1
ムスジガジ	8	-	-	1	1	33	1	-
ハナイトギンボ	40	-	-	35	-	14	40	-
カズナギ	-	-	-	1	-	-	-	-
ハナジロガジ	-	-	-	6	2	-	3	-
オキカズナギ	8	-	-	-	-	-	-	-
ムロランギンボ	2	-	-	-	-	1	-	-
ニセキタノトサカ	-	-	-	-	-	3	2	-
アメガジ	1	-	-	2	-	7	4	-
ゴマギンボ	1	-	-	-	-	5	5	-
ニセタウエガジ	-	-	-	-	-	-	-	2
ヒモギンボ	-	-	-	-	-	-	-	1
ハコダテギンボ	12	-	-	40	5	35	40	-
スジアイナメ	11	-	-	13	1	3	3	-
イソバテング	2	1	-	40	-	31	16	-
イトヒキカジカ	13	-	-	2	2	-	2	-
ベロ	13	-	1	9	1	24	19	-
ギスカジカ	40	-	-	40	1	18	14	-
フサカジカ	1	-	-	20	1	18	40	-
イトフサカジカ	11	-	-	10	-	-	19	-
クロカジカ属の1未記載種	17	-	-	40	-	-	10	-
ヤセカジカ	-	-	-	-	-	-	-	1
サイトクビレ	1	-	-	-	-	-	-	-
シチロウウオ	-	2	-	-	-	-	-	-
ヤギウオ	-	3	-	1	-	-	1	-
エゾクサウオ	1	-	-	1	-	-	4	-
シマウキゴリ	-	1	-	-	-	-	-	-
ミズハゼ	4	-	-	-	-	-	-	-
イシガレイ	-	-	1	-	-	-	-	-
ヌマガレイ	-	2	-	-	-	-	-	-
クロガレイ	-	-	-	-	-	1	-	-
クロガシラガレイ	-	-	1	3	-	-	-	3
マフグ	-	15	-	-	-	-	-	-
ST1. チャシコツ崎 (44°04.13'N, 144°58.63'E, 8月18日, 水温18.0°C).								
ST2. 斜里前浜 (43°55.06'N, 144°40.24'E, 8月19日, 水温17.3°C).								
ST3. 文吉湾 (44°20.09'N, 145°18.85'E, 8月20日).								
ST4. アブラコ湾 (44°20.66'N, 145°19.65'E, 8月20日, 水温17.0°C).								
ST5. 知床岬 (8月20日).								
ST6. 獅子岩手前 (44°19.93'N, 145°18.85'E, 8月21日, 水温17.8°C).								
ST7. 羅臼相泊 (44°11.48'N, 145°19.72'E, 8月22日, 水温18.2°C).								
ST8. 羅臼ローソク岩 (44°02.10'N, 145°13.20'E, 8月22日, 水温13.2°C).								

出典：環境省「平成29年度知床半島における浅海域生物相調査」

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

【海藻】

- 本調査で確認された海藻類は緑藻5種、褐藻27種2変種、紅藻36種の計68種であった。この種数は2006～2009年の調査で確認した種数の約60%であるが、これも調査の時期と努力量の影響だと考えられる。ただし、海藻が最も繁茂する春季に調査を行っていないことには注意すべきである。前回の調査では確認されなかったホッカイモク、オキツバラ、エゾトサカを確認された。

○調査期間：2017年8月17日～23日、11月7日～10日（延べ11日間）

○調査場所：チャシコツ崎、斜里前浜、アブラコ湾、獅子岩手前（ポロモイ湾）、相泊、ローソク岩、サシルイ岬

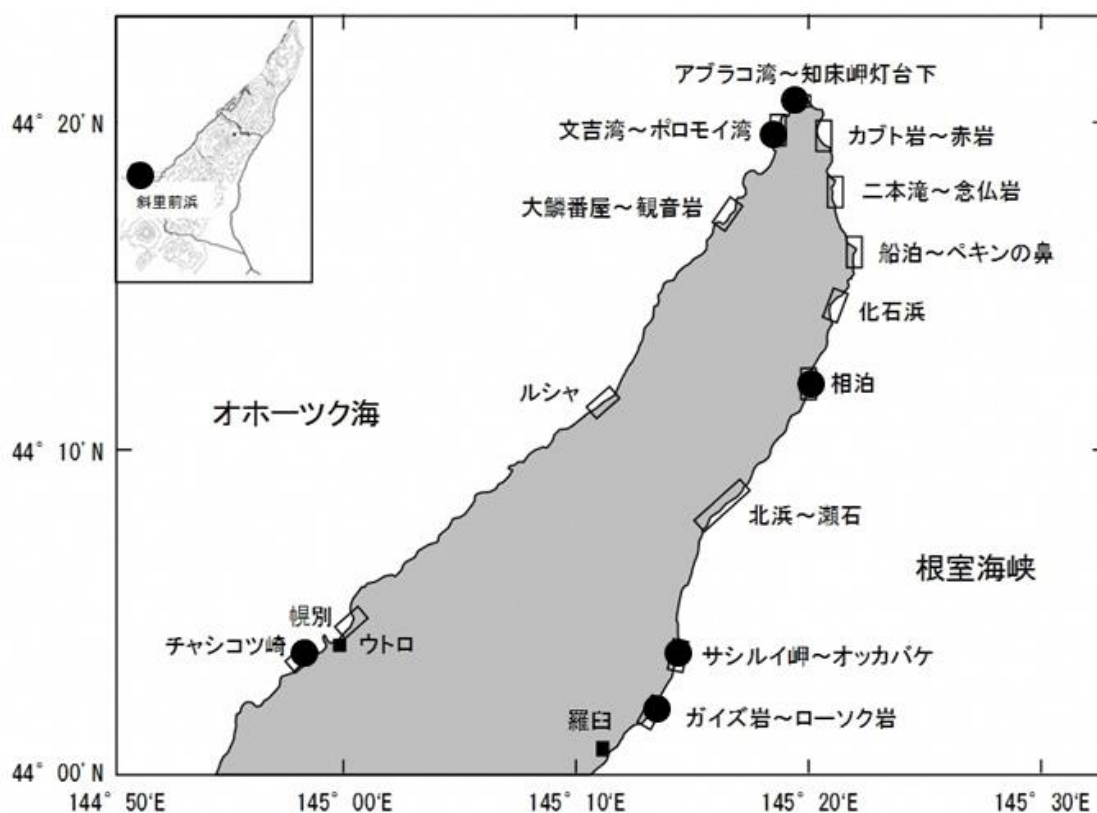


図2 2017年の知床半島浅海域における海藻生育調査の調査点 ●

出典：環境省「平成29年度知床半島における浅海域生物相調査」

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

表2 2017年に知床半島浅海域で採集された出現種

和名		和名	
緑藻綱	シロヒトエグサ	紅藻綱	<i>Pyropia</i> sp. (アマリ属の一種)
	アナアオサ		ダルス
	タマジユズモ		ウミソウメン
	ツヤナシシオグサ		サンゴモ
	エソミル (潜水による採取)		ピリヒバ
褐藻綱	イトマツモ		モカサ
	マツモ		オキツバラ (潜水による採取)
	アミジグサ		ナガアカバ
	ヒモナガマツモ		アカバ
	ナガマツモ		フクロフリ
	モツキチャソウメン		ヒラコトジ
	イソグルミ		クロハギナンソウ
	ネバリモ		カタリ
	エソフクロ		エソトサカ (潜水による採取)
	ウイキョウモ		イボリ
	ウスカワフクロリ		カレキグサ
	セイヨウハバリ		コスジフシツナギ
	カヤモリ		マツバライギス
	ホソバワカメ		イギス
	オニワカメ (打上による採取)		クシベコヒバ
	アナメ (打上による採取)		ハイウスバリ
	スジメ		コノハリ
	オニコンブ		アツバスジギヌ (潜水による採取)
	リシコンブ		ヤナギリ
	アツバスジコンブ (潜水による採取)		マキイトグサ
	カラフトロロコンブ (潜水による採取)		モリモトソゾマクラ
	ヒバマタ		ウラソソ
	エソイシゲ		フジマツモ
	ホツカイモク (潜水による採取)		イトフジマツ
	フシスジモク		キブライトグサ
	ミヤベモク	ハケサキノコギリヒバ	
	ウミトラノオ	ショウジョウケリ	
	ウガノモク	イトヤナギ	
		カラフトフジマツモ	
		ホソバフジマツモ	

出典：環境省「平成29年度知床半島における浅海域生物相調査」

平成29年度 長期モニタリング計画 モニタリング項目

【無脊椎動物】

- 8 動物門計 173 種の生息を確認し、この種数は 2006～2009 年の調査で確認した種数の約 90%であった。ただし、今回確認されなかった種は 62 種であり、ここにも調査の時期と努力量が関係している。新たに確認された 54 種は分類学的研究の進展により種名が明確になったことが主たる要因であるため、概ね大きな変化はないと考えられるが、相泊で確認されたキタアメリカフジツボは本モニタリングを通して初めて確認された国外由来の外来種である。

○調査期間：2017 年 8 月 17 日～23 日（夏期調査）、11 月 7 日～10 日（秋期調査）

○調査場所：チャシコツ崎、斜里前浜、文吉湾、獅子岩（ポロモイ湾）、知床岬灯台下、相泊、ローソク岩、サシルイ岬

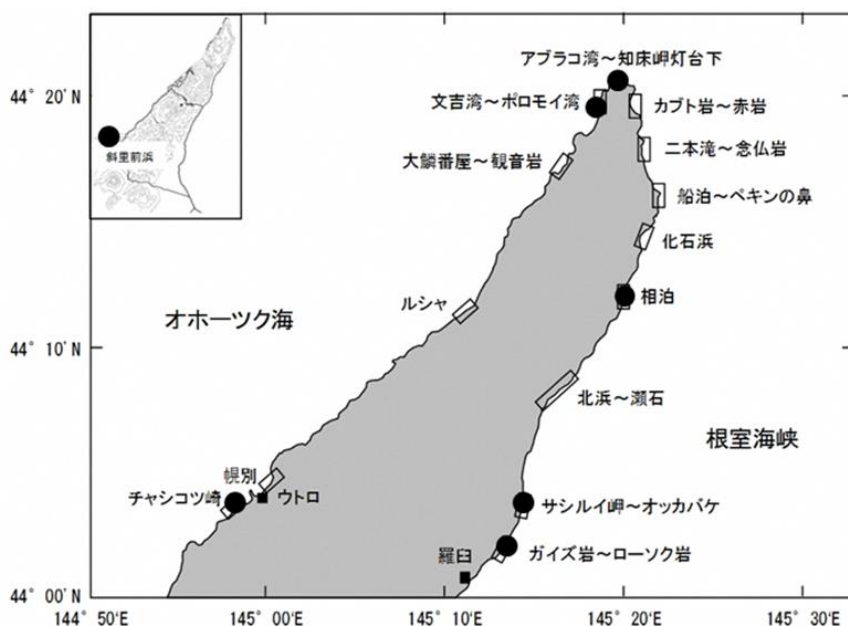


図 3 2017 年の知床半島浅海域における無脊椎動物相調査の調査点 ●

表 3 知床半島浅海域における無脊椎動物の確認種

動物門	調査年度				2017年度調査地点							
	2017	2006-09	2017 初確認	2006-09の み確認	斜里前浜	チャシコツ崎	文吉湾	文吉湾～ 獅子岩	岬灯台下	相泊	羅臼 ローソク岩	サシルイ
海綿動物	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
刺胞動物	3	4	1	2	-	2	-	2	1	-	1	-
扁形動物	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
触手動物	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
紐型動物	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
軟体動物	88	83	21	18	17	42	8	18	21	22	22	-
環形動物	11	17	2	2	2	6	4	-	1	2	1	5
星口動物	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-
節足動物	55	70	23	37	10	27	4	23	18	20	9	5
棘皮動物	13	16	3	-	1	8	5	1	2	2	10	-
種数合計	173	195	51	62	30	87	21	44	43	46	45	11

出典：環境省「平成 29 年度知床半島における浅海域生物相調査」